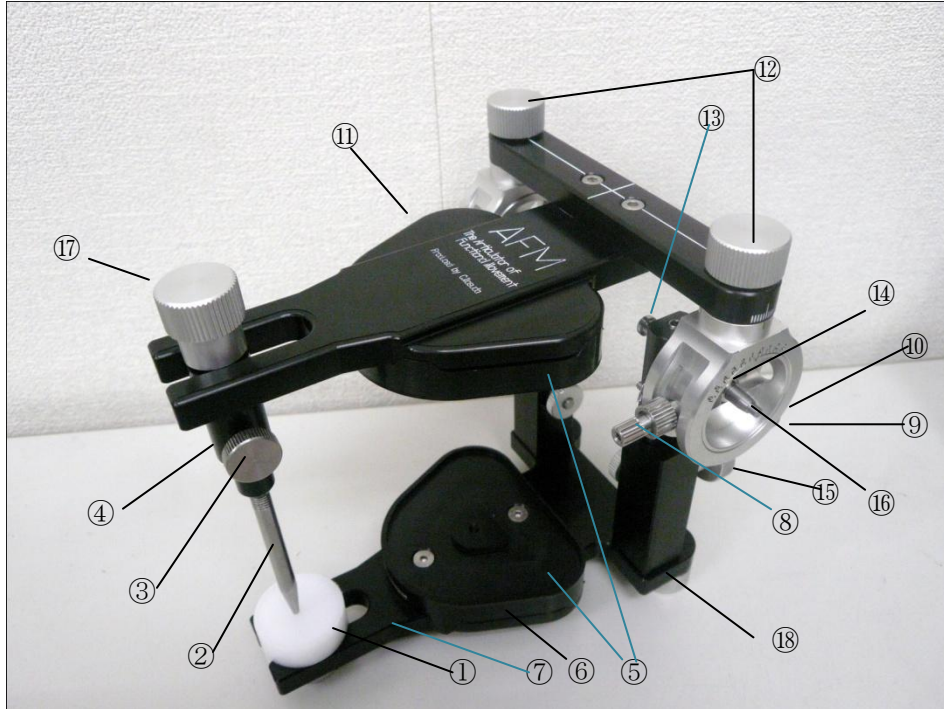


AFM

The Articulator for Functional Movement

[咬合器本体の構成部品説明写真]

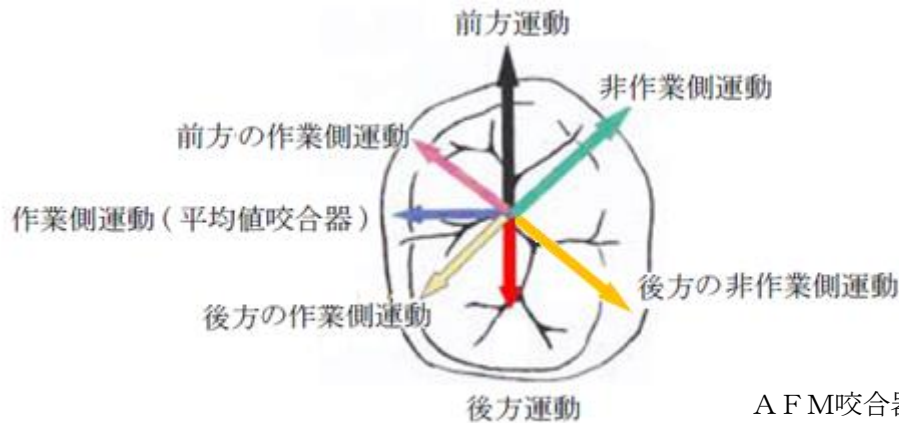


- | | | |
|---------------|--------------|-----------|
| ① 切歯指導板 | ⑧ 顆頭後方前方移動ネジ | ⑯ 顆頭軸固定ネジ |
| ② 切歯指導針 | ⑨ 顆頭球固定ネジ | ⑰ 固定ジグ用ネジ |
| ③ 切歯指導針固定ネジ | ⑩ 顆頭角調整ネジ | ⑱ 上下可動柱 |
| ④ 切歯指導針固定軸 | ⑪ 上顎 | |
| ⑤ マウンティングプレート | ⑫ ベネット角調整ネジ | |
| ⑥ プレート固定磁石 | ⑬ 顆頭軸 | |
| ⑦ 下顎 | ⑭ 顆頭球 | |
| | ⑮ 後方調整ネジ | |

測定箇所	寸法
高さ	165.5mm±0.5mm
幅	130mm±0.5mm
顎間距離	115mm±0.15mm
顆頭間距離	110mm±0.02mm

A F M咬合器 特徴

咬合器の分類としてアルコン型・コンダイラ型、スロット型・ボックス型に分けられるが、A F M咬合器はアルコン型のスロット型半調節性咬合器であり、半調節性の欠点である非作業側の調節を可能にし、顎頭の浮きあがりをもスロット型にすることによって解消した半調節性咬合器である。特徴として、生理的な限界運動から咀嚼時・嚥下時咬合までの機能運動を再現できる。



A F M咬合器での稼働可能図

AFM 咬合器の基本操作

1. 咬合採得後咬合器付着は、咬合平面板またはフェイスボウを利用して上顎から行う。
2. 咬合平面板を利用する場合は、咬合平面板前方より 2 番目のラインと正中ラインを基準にして装着を行う。
3. 上顎模型を装着し終えたらチェックバイトを使用し、下顎模型装着する。
4. 生理的な運動を行う場合はベネット角をプラス角（右回転（1メモリ5度））にセットし、顎路角の角度を調整し⑧顎頭後方前方移動ネジのネジ部大を右回りに回し、0点より前方-7メモリに調整することにより生理的な運動が可能になる。
5. 後方・咀嚼時嚥下運動を行う場合は⑧顎頭後方前方移動ネジを0にセットし、⑨顎頭球固定ネジをフリーにし、ベネット角をマイナス角（左回転（1メモリ5度））にセットし、顎路角の角度を調整し使用する。
6. 顎路角+30~-60まで調整が可能、ベネット角+25~-25まで調整が可能。
7. 側方運動を行う場合、生理的な運動（前方運動）で誘導する場合は顎路角は同側の顎頭の調整で行う。
8. 咀嚼時・嚥下時の後方移動の側方運動を行う場合、はんたいそくがわ反対側の顎路角を調整し、使用する。
9. 後方の上下可動柱の左右の高さを調整することにより、ガイド角の調整ができる。

※注意

前方（生理的な運動）・後方（咀嚼時嚥下運動）に稼働する場合はベネット角を+-にセットし使用すること。（咬合器破損の危険性あり）